



SENSHOJI  
YUKARI NEWSLETTER  
1994-2023

ゆかり通信

VOL. 301

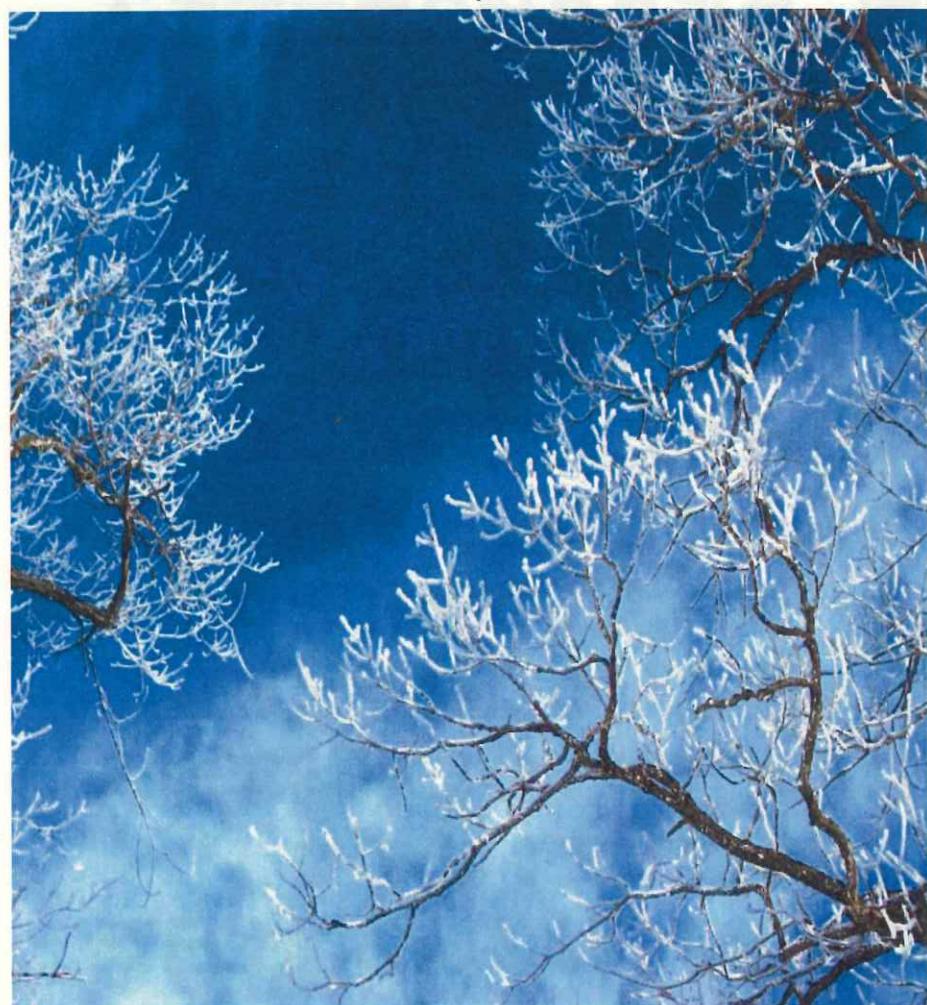
令和 5 年 2 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Sensho-ji

2023年千正寺カレンダー 2月の言葉



美しく咲く北の寒桜

悲しみを通さないと、  
見えでこない世界がある。

今月の言葉の東井義雄さんは、明治四十五年に浄土真宗本願寺派のお寺でお生まれになります。教員になります。戦中から戦後へと移り変わる時代と共に真剣に教育と向き合い、在職中は数々の教育関連の著作、定年退職後は僧侶として講演などの布教活動を数多く行った方です。

また、著作に表された名言・格言は現在でも様々な出版物やカレンダーなどに使われ、知らず知らずのうちに私達も目にしたことがあると思います。

『悲しみを通さないと 見えてこない世界がある』

今月の言葉は皆さんにもうなずけるものがあるのでないでしょうか。と同時に私にとってはかつてもどかしさを感じていた言葉であります。

私は色々なご縁があって三十代の初めに得度して僧侶となさせていただきましたが、実際お寺に務めることになった際、私が接するのは大切な方を亡くされたことをキッカケにお寺とご縁ができた方々です。

たとえなにげないお話をしていても、お寺さんとお檀家さんという関係である以上、話の奥底には先立たれたご先祖の方や連れ合いの人が存在しています。

そこには勿論悲しみに明け暮れ、「毎日涙が止まらないんです。もう一年も経っているのに。こんなのおかしいですよね、お寺さん。」などというお話を聞かせていただくこともしばしばございます。

その際に僧侶として阿弥陀様のお救いの力の話をしたらいいことは分かっているし、それが役割であると思いますが、私自身小さい頃父を亡くしましたがあまりに幼い頃で、それ以降母も兄弟も友達も、その時点ではみな健在で、大切な方を失った悲しみを経験では理解していなかった為に、悲しみを目の当たりにしている人を前に自分の語る言葉が軽く感じてしまい、なんとも言えない後ろめたさを覚えていました。

そう思うこと数年、とうとう私にも大切な肉親との別れを迎えることになりました。もう今生では出会うことや話すことができないという悲しみ、もっと何かできたんじゃないかという後悔をしりました。と同時にこれで悲しみに明け暮れる方の気持ちを理解できるようになったかというと、それも違うということに気が付きました。寂しいことですが、誰もが同じ悲しみなどないし、本当の意味で理解して共感することは難しいと思います。

浄土真宗は阿弥陀如来さまにお救いいただきみ教えです。阿弥陀如来さまは分け隔てなくそのすべての人の悲しみを包み込んでくださいます。そして「あなたの命は、どんな死に方をしても決して不幸になる命ではありませんよ。私がお浄土という場所に生まれさせ、仏にしますから、安心してください。それがもし、大切な人と別れることになったとしても、お浄土でまた会えますから。安心してくださいね。」といつも呼んでくださり、苦しみ悩みから救ってくださるということを知るご宗旨であります。悲しみを通してみえてくる世界はあるとおもいます。

そしてやはり僧侶としての私の役割は、阿弥陀様のお救いの力をお話すことなのだと気付かされました。

(文：行武秀明法務員)